

■武田耕雲斎 尊攘派志士，藩執政。罷免・復帰を繰り返し，最後は“元水戸殿家来浪士総大将”として斬罪に。

たけだこううんさい
アリカ船来航始1803＝ 水戸藩士跡部正統の嫡男として生まれる。

正統の兄正房の養子となり本家を継いだが，

のち跡部の旧姓武田に復す。

高田屋拿捕・1812＝ 9歳：

杉田玄白没・1817＝14歳： 家督を継いで， 寄合組。
水野忠成老中1818＝15歳： 小姓。

蝦夷地直轄終1821＝18歳：

シボム追放・1829＝26歳： 使番となり， 徳川斉昭の藩主擁立に尽力して以来， 改革派に属して活動。
富籤流行・ 1830＝27歳：

大塩平八郎乱1837＝34歳：

蛮社の獄・ 1839＝36歳：
勲進帳初演・1840＝37歳： *若年寄(参政)となったが，

天保改革弾圧1842＝39歳： 大番頭に左遷。

天保改革終・1844＝41歳： *斉昭の藩主解任後， その雪冤を求めて江戸へ無願出府，
阿部正弘首座1845＝42歳： 其の罪で役禄を召し上げられ， 致仕・慎を命ぜられた。

・・・ 1848＝45歳： 慎を免ぜられ，

ペリー来航・1853＝50歳：

安政大地震・1855＝52歳： 再び大番頭となり， 若年寄再勤。
松下村塾・ 1856＝53歳： *執政(用達)に進み， 尊攘派の重鎮として活動するも，

蕃書調所・ 1857＝54歳：
五ヶ国条約・1858＝55歳： 罷免。

桜田門外変・1860＝57歳： 執政再任。
遣欧使節・ 1861＝58歳： 謹慎。謹慎解除。三たび執政。一橋慶喜に随従して上京，
生麦事件・ 1862＝59歳： 江戸帰着。

禁門の変・ 1864＝61歳： 伊賀守に任じ， 従五位下に叙せられた。藤田小四郎らによる筑波山拳兵(天狗党の乱)が行われると， 領内取締り不行届の故をもって執政を罷免され， 謹慎処分を受け水戸に下った。市川三左衛門ら門閥派政権に抗議するため一族を率いて出府を企てたが果たせず， 藩主徳川慶篤の名代として領内鎮撫のため水戸に向かう 宍戸藩主松平頼徳に随行。しかし市川らに入城を阻止されたため那珂湊に陣して城兵と戦った。藤田らの筑波勢と合流， 北上して大子村に集結， 天狗党を再編， 全軍の首領として上京の途についた。西上の途次， 諸藩の兵と交戦， 苦しい行軍を続けたが力つきて加賀藩に降った。

薩摩藩士密航1865＝62歳： *敦賀で“元水戸殿家来浪士総大将”として斬罪に処せられた。